



とちぎ国体でベストを尽くす

畑周さん（葛巻高3年）、服部勇佑さん（31歳・田子）

10月1日～11日、栃木県で開催された第77回国民体育大会に、本町から畑周さんと服部勇佑さんが出場しました。本町選手の夏の国体出場は、平成27年の和歌山国体にゲートボール競技で出場して以来の快挙です。

陸上競技男子少年走高跳に出場

自己ベストの記録で8位に入賞した周さん（下は顧問の下村直子先生と賞状を手に喜ぶ様子）



した畑さんは、2m03を3回目の跳躍でクリア。自己ベストで見事8位入賞を飾りました。

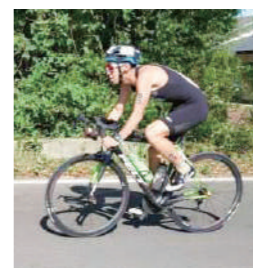
また、服部さんは競技経験は約1年と短いながらもトライアスロンで県代表に選ばれ、89人中76位、自己ベストのタイムで完走。

トップアスリートが集う国体で2人の選手は実力を発揮し、町民に希望を与える活躍をしました。

【両選手の声】

畑周さん▼国体の会場は大きなスタジアムで圧倒されたが、平常心で試合に臨むことができた。2m03を2回失敗し「このまま終わりたい」という思いで3回目を跳んだ。自己ベストでインターハイのリベンジができて良かった。自分は陸上部でみんなを引っ張ってきたつもりだったが、同時にみんなからずっと後押ししてもらってきた。この結果が出せたのは、先生や仲間、地域の皆さんの応援のおかげだと思っている。

服部勇佑さん▼スイムやバイクでは全国の選手と実力差を感じたが、



トライアスロンに出場した服部勇佑さん（上は国体のレースの様子）



得意のランで順位を上げ、自己ベストの記録で完走できて良かった。大会から帰り、職場（葛巻病院）の皆さんや患者さんから「国体お疲れ様」と声をかけてもらい、とても嬉しかった。

子どもの頃は走るのが苦手だったが、トライアスロンを通じて自分の限界はもっと先にあると感じている。今後は苦手なスイムを強化して次の大会を目指したい。

民謡歌い継ぎ5周年

葛巻みんよう伝承会（吉澤ツエ代表・会員16人）は10月9日、総合センターで「結成5周年記念発表会」を開催し、約80人が来場しました。

同会は、平成29年に生涯学習講座「民謡教室」をきっかけに発足。発表会の開催にあたり、吉澤ツエさんは「小さな団体ですが、長い



声高らかに民謡を唄う会員の皆さん

年月多くの人に歌い継がれてきた民謡を、次の世代に一生懸命つなげていきます」とあいさつしました。着物に身を包んだ会員の皆さんは、練習の成果を発揮し数々の民謡を高らかに唄い上げたほか、民謡歌手菊池マセさん一行の民謡ショーなども催され、来場者は迫力ある唄や踊りの魅力に引き込まれていました。

「南部酒屋配すり唄」などを唄った下天戸楓さん（葛巻中3年）は「唄の意味や由来を知り、自分で唄い方の工夫ができるようになる」と楽しいと民謡の魅力を話していました。また、今年入会した藤岡慶司さん（土谷川）は「弥三郎節」を堂々と披露。「唄い出しが難しい唄だが、本番が一番うまくできた」と満足げな笑顔を見せていました。

参加をお待ちしています

★葛巻みんよう伝承会

【練習日】毎月第1・第3木曜日、午後7時～9時

※場所はお問い合わせください

代表 吉澤ツエ（田子）

☎090・90033・3562

総合センターの機能が新庁舎へ移転します

- ▶総合センターの機能は新庁舎に移り、11月7日(月)からホールや会議室などの利用が可能となります。(12月末まで無料)
 - ▶図書室は11月1日(火)～6日(日)まで臨時休業します。7日(月)から新しい図書室をご利用ください。
- ☎まなび交流課 ☎66-2111



公民館 図書室から 本の紹介

●開館時間：午前8時30分～午後7時
●休館日：年末年始



『ヨルとよる』
あさのますみ 作
よしむらめぐ 絵
外に出ることがない、黒猫の男の子、ヨル。夜空みたいな色だから、ヨルと名づけられました。ある日、家で暮らしたことがない、まちのネズミと出会い…。ヨルとネズミの特別な夜のお話し。



『雨の日は好きな人』
佐藤 まどか 著
お母さんが再婚し、小6の七海に新しいお父さんとお姉さんができた。しかしお母さんたちは、ずっと入院しているお姉ちゃんを心配し、七海をほったらかしにして…。複雑な家庭の中で揺れる少女の心を描く。



『黄金の刻(とき)』
小説服部金太郎
榎 周平 著
明治7年。服部金太郎は高価ゆえに持つ人の限られていた「時計」に目をつけ、いずれは時計商になりたいという熱い想いを抱き…。著者は岩手県出身。「セイコー」創業者の一代記。

生涯学習フェスティバル 町民の作品がさまざまに
10月15日から23日、生涯学習フェスティバル2022が総合センターで開催されました。会場では、葛巻福祉大学の受講生による華やかな吹き流しや、団体や個人による写真や書道、手芸などの作品が多数展示され、訪れた人の目を楽しませていました。

着物の帯をリメイクしたタペストリーを制作した長岡ハルさん（城内小路）は「一緒に作ってもみんなそれぞれに違っていい」と創作の楽しさを語っていました。



作品を鑑賞する来場者